

# チョコレートの ような青汁、 いかがですか？

あんびるやすこ



「魔法の庭ものがたり26  
願いがかなう ほのか魔法」  
表紙/2023年/ポプラ社



私は作家になる前、玩具企画の仕事をしていました。TVアニメの変身アイテムを玩具にする楽しい仕事です。でも、子どもがその玩具をほしがつても、親はいつも渋い顔。そんな経験から私は、子どもがほしがるだけでなく、親もそれを子どもにプレゼントしたくなるものを作りたいと考えるようになりました。そして、本ならそれが作れると思ったのです。

児童書を書こうと決めると、創作のコンセプトを「チョコレートのような青汁」と定めました。その意味はこんな風です。

チョコレートのように子どもが進んで食べたがり、それでいて栄養価は青汁レベル。食べれば成長に役立つのでごと今では単なるおやつではなく高栄養食品として見な

トしました。親も達が大好きなファッショングやお菓子を題材にして、本を手に取つてもらう。そして最後の頁まで読んでもらうためにも一工夫。全てのページに挿絵をいれ、1つのエピソードの文字数を少なくして、読書が苦手でも楽しく読めるようになります。以上がチョコレートの部分です。そうして子ども達を最終頁まで導き、本に込めたテーマを読みとつてもらうのです。これが青汁の部分。何がチョコレートとなるかは時代と共に変わつても、本のテーマとなる青汁は違います。他者理解、思いやり、努力の大切さ等など、宮沢賢治の時代から何も変わらず、普遍的で心の栄養となる児童書のメッセージが青汁なのです。

おされてますが）これを本に置き換えてみると……。まづ子ども達が大好きなファッショングやお菓子を題材にして、本を手に取つてもらう。そして最後の頁まで読んでもらうためにも一工夫。全てのページに挿絵をいれ、1つのエピソードの文字数を少なくして、読書が苦手でも楽しく読めるようになります。以上がチョコレートの部分です。そうして子ども達を最終頁まで導き、本に込めたテーマを読みとつてもらうのです。これが青汁の部分。何がチョコレートとなるかは時代と共に変わつても、本のテーマとなる青汁は違います。他者理解、思いやり、努力の大切さ等など、宮沢賢治の時代から何も変わらず、普遍的で心の栄養となる児童書のメッセージが青汁なのです。

読み聞かせをしてあげた我が子が一人読みできるようになつた時の喜びと、少し寂しい気持ち。そんなご両親の気持ちを児童書作家はいつも感じています。なぜなら、児童書を読むのは人生の数年間だけ。私たちは一般書へ旅立つ読者を見送る宿命だからです。でも最近は、10年前に見送つた読者たちが講演会に来てくれるようになりました。その成長した姿を見るたび、私はこの仕事をしてきて良かったと感じます。

（絵本作家・児童書作家）

出来上がった一作目「なん

Report

# 時代小説と歴史小説展

好評  
開催中

## 江戸時代を生きる、今を生きる

1月から開催中の「時代小説と歴史小説展」では、江戸時代を生きる、今を生きる

生きる」では、江戸開府前夜の戦国末期から幕末までを5つの区分にわけ、各時代を描いた高知県ゆかりの作家の時代小説・歴史小説を歴史の流れに沿って紹介するとともに、江戸時代を知るてがかりとして

様々なパネルを制作しました。

「江戸の武士」では、将軍を頂点に、老中・若年寄・側用人・与力・同心などと続く幕府の職制の表に時代小説・歴史小説に出てくる登場人物たちをあてはめました。お気に入りの登場人物がどのような組織の下で働いていたのかが大変わかりやすいとご好評をいただいているま



「江戸の古地図で楽しむ時代小説の世界」では、寛政4(1792)年の江戸と現在の東京の地図を並べ、時代小説の舞台として登場する地を現地の写真とともに紹介しています。作中で主人公たちが歩いた橋の名前や寺社、通りなどを辿ることができます。作品世界をよりリアルに感じることができます。

そのほかにも登場人物たちの仕事を見舞いとして白綸子という生地を贈られたことに対する返礼として発給された文書です。東福門院和子は「寛文小袖」の流行など、こよなく着物を愛した女性として知られています。360年以上前のこの文書から東福門院和子という女性の姿がおぼろげに伝わってくるようです。



関連企画として、1月には山本一力先生を迎えてトークリーアイベントを開催しました。そのほか2月には松平定知氏記念講演会や文学散歩、貝合わせなど多数の関連企画を開催。多くのお客様に楽しんでいただきました。

時代小説と歴史小説展は3月24日(日)まで開催中です。ぜひお越しください。

(学芸課／岡本美和)

三大祭である神田祭・山王祭・深川八幡祭を紹介する「江戸の祭り」、「天璋院篤姫」入輿の道・「竜馬がゆく」の竜馬脱藩の道・「流離譚」の誅組行軍の道を紹介する「幕末の道」など、様々な視点から時代小説の歴史小説を紐解きます。

また、今回の展示では、作家の創作物資料と作品にまつわる歴史資料を集めた展示も見どころです。一つとして、宮尾登美子著『東福門院和子の涙』に関連して、高知城歴史博物館より「東福門院女房奉書」をお借りして展示。これは御所で起きた火事の際、3代土佐藩主から火事見舞いとして白綸子という生地を贈られたことに対する返礼として

# あんびる やすこ展 ご案内

会期 令和6年4月6日(土)～6月16日(日)



©Yasuko Ambiru

ていくストーリーは、読み終わつたあと、読み手の心を温かくしてくれます。そして、がんばる勇気をくれるのです。

この展覧会では、みずみずしい色彩の原画をはじめ、制作過程がうかがえるスケッチ、作家愛用の道具などを展示します。また、それぞれの作品のイメージを再現したコーナーや、写真撮影コーナーもあります。

あんびるやすこさんは、こんな素敵な言葉を述べています。



「なんでも魔女商会9巻 ルビーの魔法マスター」  
スケッチ画ページ/2007年/岩崎書店



「魔法の庭ものがたり9 フェアリーたちの魔法の夜」  
98～99ページ/2011年/ボプラ社

「読書の習慣を身につけるのは、100人の友だちを作ると同じくらいのとき目があると私は思っています。」

きっと、あなたのこれから的人生を支えてくれると思います。ぜひ、高知県立文学館の「あんびるやすこ作品展」をきっかけに、たくさんの方たちを探してみてください。(学芸課/川島禎子)

あんびるやすこさんは、うでのいいおさいほう魔女のシルクと人間の女の子のナナが登場する「なんでも魔女商会」シリーズ(岩崎書店)、ルルとララが店長のお菓子屋のお話「ルルとララ」シリーズ同)、魔女の庭を相続した人間の女の子ジャレットが奮闘する「魔法の庭ものがたり」シリーズ(ボ・フラ社)、宝石と話ができる魔女パールのお話「ムーンヒルズ魔法宝石店」シリーズ(講談社)など、ミリオンセラーを超えるシリーズをいくつも手がける、大人気絵本作家です。

# めざめる探偵たち

文豪ストレイドッグス

高知県立文学館

Report

令和5年10月7日(土)～令和6年1月8日(月祝)  
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)



展示内容は前号でご紹介しました通りですが、日本探偵小説の黎明期を支えた高知県出身の文学者・黒岩露香、馬場孤蝶、森下雨村に焦点をあて、当館所蔵の資料約200点を中心にその業績を紹介しました。

1月7日(日)にはファイナルイベントとして『文豪ストレイドッグス』原作者の朝霧カフカ先生、漫画編集担当の加藤浩嗣氏、アニメプロデューサーの倉兼千晶氏を招いてトークを開催。3人の仲の良さが窺える

冬に開催した探偵展。大人気作品『文豪ストレイドッグス』とのコラボ第二弾ということもあり、おかげさまで県内外からたくさんのお客様にご来館いただき、好評のうちに閉幕しました。

展示内容は前号でご紹介しました通りですが、日本探偵小説の黎明期を支えた高知県出身の文学者・黒岩露香、馬場孤蝶、森下雨村に焦点をあて、当館所蔵の資料約200点を中心にその業績を紹介しました。

1月7日(日)にはファイナルイベントとして『文豪ストレイドッグス』原作者の朝霧カフカ先生、漫画編集担当の加藤浩嗣氏、アニメプロデューサーの倉兼千晶氏を招いてトークを開催。3人の仲の良さが窺える

浅篠志先生による記念講演会から始まり、映画上映会やクリスマスイベント、先着プレゼントなど多彩な関連イベントで盛り上がった本展。お客様からは「文豪は文豪も覚えられるので中学生の私からしたらとてもありがたい!!」や「文スト絵も話も全部好きです!作家さん本人の人生も好きなので伝えていけるよう!」など嬉しい声が多く寄せられました。改め

湯浅篠志先生、KADOKAWAの皆様、関係各位に厚く御礼申しあげます。

(学芸課／福富陽子)



軽妙なトークではキャラクターのウラ話や物語のメイキングなどが次々に飛び出し、その日のみSNSで関連ワードがトレンド入りするなど大きな反響を呼びました。

他にも大正文学研究者の湯



浅篠志先生による記念講演会から始まり、映画上映会やクリスマスイベント、先着プレゼントなど多彩な関連イベントで盛り上がった本展。お客様からは「文豪は文豪も覚えられるので中学生の私からしたらとてもありがたい!!」や「文スト絵も話も全部好きです!作家さん本人の人生も好きなので伝えていけるよう!」など嬉しい声が多く寄せられました。改め

湯浅篠志先生、KADOKAWAの皆様、関係各位に厚く御礼申しあげます。

この度、当館の川島禎子主任学芸員が松下貢氏(中央大学名誉教授)らと共同執筆した『寺田寅彦「線香花火」「金米糖」を読む』が「第43回寺田寅彦記念賞」を受賞しました。この賞は、県文教協会主催で、昨年県内で刊行された出版物を対象としたものです。

今回受賞した『寺田寅彦「線香花火」「金米糖」を読む』は、寺田寅彦が書いた線香花火や金米糖についての

この度、当館の川島禎子主任学芸員が松下貢氏(中央大学名誉教授)らと共同執筆した『寺田寅彦「線香花火」「金米糖」を読む』が「第43回寺田寅彦記念賞」を受賞しました。この賞は、県文教協会主催で、昨年県内で刊行された出版物を対象としたものです。

物理学者で随筆家でもあった寅彦の生涯や各方面での功績、ゆかりの品々等を紹介しております。こちらにも足を運んでいただけたらと思います。また、当館には寺田寅彦記念室があり、寅彦の生涯や各方面での功績、ゆかりの品々等を紹介しております。こちらにも足を運んでいただけたら、より深く作品を読み取ることができるので私は

隨筆「備忘録」に関する研究書であり、4名の研究者が理学・工学・文学等のそれぞれの視点で多角的に読み解いたものとなっています。川島主任学芸員は、文学の視点でこれらの隨筆の背景を丁寧に考察しています。



物質と生命に橋を架ける寅彦の科学的默示録

「科学の底をぬぐ」一大計画に挑む

繰り返される生と死のリフレイン

窮屈舎 定価(本体2300円+税)

(学芸課長／織田敦子)

祝  
「第43回寺田寅彦記念賞」

## 土佐文学さんぽ

### 六郎山の先達 洋画の挿し絵

たなし



山六郎カット絵



山の墓は高知市山の端、千代丸神社の西側、斜め坂道の上、キリスト教徒らしく簡素に建っている。

山は明治三十九年九月に、安芸の五藤家の支族・五藤正條、艦の五男として生まれた。子供の頃、養子に出され、高知市鷹匠町の山治武、許の養子となつた。治武は漢学者、鏡川という号を持つ漢詩人。旧制高知第一中学校で楠永直枝に美術を学び、教師の似顔絵やマンガを描いて茶目気のある学生であった。

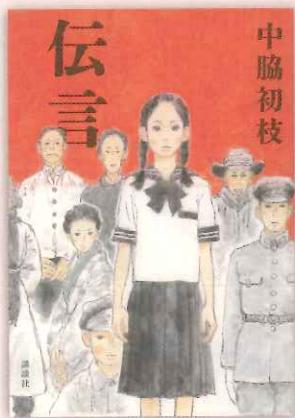
京都高等工芸学校图案科を卒業した山は大阪の中山太陽堂に入り、クラブ化粧品の意匠デザイナーとして知られたが、社長中山太一の弟・豊三がプラントインキを担当、「プラント社」を設立、「女性」という雑誌を創った。山も出向してその編集に携わつたが、そのペン画のアズレイ風の見事な美しさは、他を圧し、「女性」の山の名は一躍知られる存在となつた。

中脇初枝さんは徳島県生まれ、高知県育ちの作家です。17歳で作家デビューし、約10年前から戦争をテーマにした小説に取り組んでおり、高知県の満州開拓団を描いた「世界の果てのこともたち」など、戦争の記憶を綴っています。今回ご紹介する『伝言』は、昨年8月に刊行された第14回山田風太郎賞の候補となつた太平洋戦争末期の満州を舞台にした作品です。物語の主人公・ひろみは生まれも育ちも満州の日本人女学生です。戦争が激しくなると、授業はなくなり、工場で大きな紙風船をつくる作業を行います。何に使われるもののか知らされず、お国のため、兵隊さんのためと尽忠報國を誓い眞面目に勤労奉仕を取り組みます。しかし1945年8月に作業は突然中止になり、終戦を迎えます。満州に駐屯していた日本陸軍部隊はすでに逃げ、進駐してきたソ連兵たちの強奪や性暴力に逃げ惑い、飢えと冬の寒さに鬱々ながらひろみ

となつた。その山のデザインにあこがれて入社したのが、山名文夫と岩田専太郎である。山名は後に資生堂に入り、ツバキのデザインで名をなして多摩美術大学の教授を務めたが、岩田は吉川英治の「鳴戸秘帖」のさし絵で名をなし挿し絵界の第一人者となつた。関東大震災で、東京が壊滅、関西をたよつて大阪に来た彼達は、山の下で、デザインの指導を受けたものである。

プラトン社はその後東京へ居を移したが、講談社の「キンク」などの大衆雑誌などにおされ、昭和三年に解散。山もフリーデザイナーとなる。その後「婦人公論」や同郷の浜本浩の浅草物のさし絵を描いたりし「主情派美術会」に属し、「ヘマコロン」など商業デザイナーとして知られた。太平洋戦争の末期、紙不足、東京の空襲が激しくなると帰郷。高知新聞の編集、広告の嘱託デザイナーとして籍を置いた。当時、高知新聞が発行した「月刊高知」の表紙絵やデザインなどを担当。昭和二十一年、山脇信徳、中村博が発議した「高知県展」の構想を、時の高知新聞の社長栗尾結城に渡りをつけ、六久保一永を得て、発足にこぎつけたのも山である。商業デザインの審査員も務めたが、昭和五十七年十月八十五歳で逝去。戦後、高知へ多くの文人を講師に呼ぶとき、山のコネクションが大きかつたといふ。

(郷土史家)



『伝言』  
中脇初枝著 講談社刊  
2023年8月 四六判 307頁  
中脇初枝氏寄贈

## 資料受贈報告

『伝言』

この作品は、実際に満州で女学校時代に秘密兵器の製造に動員されていた高知市在住の女性の半生を描いたものです。満州という存在は歴史の授業で習うが、実情は全然知られていない。(中略)お話を聞いて思いを託されたと感じた」と中脇さんは言っています。知らず知らずに「差別」してきたことを、「見て見ぬふり」をしてきたことを、「秘密」にしてきたことを、今を生きる私たちが戦争の記憶を後世に伝えていくために、是非読んで頂きたい1冊です。(学芸課／山崎真理)

### 受贈報告

(令和5年11月～令和6年1月)敬称略

- ▼倉松美香穂「寺寅彦書き込み冊子」(岩波講座地理学 德田貞「弧状山脈」)
- ▼柴田ケイコ「まつしろしきくま」(柴田ケイコ作絵 P.H.P.研究所刊他)
- ▼松本 研「CDR俳諧春星連載1896・明治29年～1897年 前期瀬戸と京阪俳友満月会 松本研著制作」
- ▼馬越健児「令和4年度今治史談(合併号)No.29 今治史談会編刊」
- ▼山野晴雄・大正デモクラシーと地域民衆の自己教育運動・自由大学運動の研究
- ▼山野晴雄著「自由大学研究資料室刊」
- ▼橋本俊明「霸王樹三重129号 橋本俊明編 眞王樹三重文社刊」
- ▼大久保せつ子「詩人会議736号 詩人会議編刊」
- ▼依光邦憲「我が愛しの仲間たちオートバイに魅せられた人生」(依光邦憲著 リリーブル出版刊)
- ▼日本歌人クラブ・日本歌人クラブアンソロジー2023年版「現代万葉集」(日本歌人クラブ編 短歌研究社刊)

宮尾文学の世界室では、2014年12月末に亡くなり、今年で没後10年となる宮尾登美子の作品世界を、当館所蔵の直筆原稿を中心に紹介する展示を行います。

昭和48(1973)年刊行の『櫂』上巻から平成20(2008)年刊行の最後の長編『錦』までの小説作品の中より、当館所蔵直筆原稿を年代順に展示。文字の変遷、原稿用紙の変遷、使用するペンの変遷など、直筆原稿だからこそわかる変遷をご覧いただけます。

また、「櫂」下巻を刊行した昭和49(1974)年、大田区南六郷二丁目の公団住宅で机に向かう姿や、直木賞受賞決定翌日に夫とともに微笑む姿、大作『平家物語』執

筆のため建てた山荘の書斎での姿を写した写真など、当館が所蔵する膨大な宮尾文庫写真資料の中から書斎で写した貴重な写真を展示。直筆原稿と写真で宮尾登美子の作家活動をご紹介します。

## 没後10年 宮尾文学の世界 ～直筆原稿と写真で辿る～

筆のため建てた山荘の書斎での姿を写した写真など、当館が所蔵する膨大な宮尾文庫写真資料の中から書斎で写した貴重な写真を展示。直筆原稿と写真で宮尾登美子の作家活動をご紹介します。

多数の直筆原稿を所蔵している当館ならではの展示で、宮尾文学の世界に迫る「没後10年 宮尾文学の世界～直筆原稿と写真で辿る～」は令和6年4月1日より開催します。

展示入れ替えて、3月25日(月)～3月31日(日)まで、宮尾文学の世界室は休室となりますので、ご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

(学芸課／岡本美和)



昭和54(1979)年1月 第80回直木賞受賞決定の翌日、夫とともに

彼女の生きた平安時代中期は、天皇

す。

古典の傑作として知られ、世界中で読まれている『源氏物語』ですが、学校の授業で触れた程度で通読したことではない」という方も多いのではないでしょうか。この展覧会では『源氏物語』のあらすじや谷崎潤一郎、吉井勇など近代以降の作家による現代語訳を、美しい絵巻の写真などをともにご紹介します。また、本名や生没年も明らかになつていらない紫式部の実像を知る重要な資料である『紫式部日記』と和歌集『紫式部集』を紹介する展示も行います。



田山敬義『百人一首図絵』より紫式部の部分

### 常設展企画コーナー

期 令和6年4月1日(月)  
会 令和7年3月23日(日)



や后に仕える女房たちによる女流文学が花開いた時期もあります。紀貫之が女性に扮して描いた「最初のかな日記」とされる『土佐日記』に始まる日記文学も、興味深い作品揃いです。日記には宫廷生活のこと、家庭のこと、和歌、他の女房の批判などが綴られています。日記の著者たちの境遇は様々で各作品ごとに特色があるのですが、今回は『源氏物語』と関わりのあるものを紹介します。

千年以上前の、さらに女性の手による文学が現在に伝わっているのは驚くべきことであり、私たちはそれを多種多様な形で受け取ることができます。展覧会を通じて平安時代の女性たちに思いを馳せ、平安文学を身近に感じていただければ幸いです。

(学芸課／笠岡花菜子)

## ショッピング

より



だんだんと春めいてきて、暖かく過ごせる日も増えてきました。  
藤並の森では白梅も咲いていて、通り過ぎるたび良い匂いを漂わせててくれています。

文学館では「時代小説と歴史小説展」が開催中です。

ミュージアムショップでは企画展でご紹介している志水辰夫、辻堂魁、畠中恵、藤原紺沙子、山本一力など高知県に縁のある作家の時代小説、歴史小説を取り揃えています。展示をご覧になつたあとは、気になつた作家や小説をぜひショップで探しめてください。

また、好評いただいている東京美術のブックマークも新入荷しております。

皆様お誘いあわせの上、ご来館下さいませ。

(総務事業課／北川智絵)



## 館長工ツセイ・

七草がゆを食べながらテレビ画面に目をやると、そこには昨年訪れた能登半島和倉温泉のホテルが映し出されていました。庭やその先の七尾湾には確かに見覚えはあつたが、ロビーの床はひび割れ、客室の天井や壁が崩れ落ちた変わり果てた姿には、正直言葉を失つた。わずか数か月前には、美しく洗練された空間の中で従業員の方々が笑顔で出迎えてくれたのに…。

希望に満ちるはずの元日の能登半島を襲つた今回の震災で亡くなられた方々のご冥福と一日も早い復興を心からお祈りいたします。

そんな暗い気持ちを抱きつつ、企画展「めざめる探偵たち～文豪ストレイドッグス×高知県立文学館」のファインルイベント会場へと向かつた。そこで目にしたのは、寒風の中、開場までの時間を整然と整列し、会場入りしてからも開演を静かに待つ文豪ストレイドッグスファンの姿。そのマナーの良さには驚きとともに、感動すら覚えた。

ステージに登壇いたいた原作者の朝霧カフカ先生はじめ、作品制作に深く関わってきたスタッフの皆さんによるトークからも、作品に対する愛情とファンを思う気持ちが痛いほど感じられ、ほのぼのと温かい気分を味わうことことができた。

一人ひとりが規律を守り、思いやりの心を持つことが、どんなに大切で素晴らしいことなのかを再認識できた貴重な一日でもありました。

(松尾晋次)

## トピックス

「時代小説と歴史小説展－江戸時代を生きる、今を生きる」関連企画として、1月28日(日)に山本一力先生のトークイベントを開催いたしました。



2階企画展示  
室前の限られた  
スペースでした  
が、お客様と膝を  
交えるような近  
さで、「自作を語  
る」と題し、「姉  
御」と慕う宮尾  
登美子さんとの  
交流や、「ふるさ  
と・土佐」への思  
いを語ってくださいました。「姉御から、『土佐  
から何か依頼を受けたら、報酬や条件など問  
わず、必ず引き受けなさい。それが故郷にでき  
る恩返しだ』と教わった。それが自分の根底に  
ずっと流れている」という言葉に聴衆は引き  
込まれていきました。そして、土佐で経験し  
培つたものが作品の源であることなどを語ら  
れました。約1時間のトークイベントでしたが  
が、活発な質疑応答もなされ、会場は大いに盛  
り上がりました。

(学芸課長／織田敦子)

## 高知県立文学館カレンダー

## 時代小説と歴史小説展

好評  
開催中

## —江戸時代を生きる、今を生きる—

- 会期 令和6年1月20日(土)～令和6年3月24日(日)
- 会館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 会場 高知県立文学館 2階 企画展示室
- 観覧料 500円(常設展含む)  
長寿手帳等お持ちの方・高校生以下は無料

展覧会の紹介をしています! 詳しくは2ページ目をご覧ください。



## 朗読の会「時代小説・歴史小説を読む」

- 内容 当館のカルチャーサポーターによる朗読です。
- 開催日時 令和6年3月16日(土) 午後2時～4時
- 定員 なし ※事前申し込みは不要です。
- 場所 文学館1Fホール
- 申込 不要(当日、直接会場までお越しください)

次回  
開催

## 「あんびるやすこ作品展」

- 会期 令和6年4月6日(土)～令和6年6月16日(日)
- 会場 企画展示室
- 観覧料 500円(常設展含む)  
長寿手帳等お持ちの方・高校生以下は無料

展覧会の紹介をしています! 詳しくは表紙・3ページ目をご覧ください。



## 創刊45周年記念ムー展 ~謎と不思議に挑む夏~

●期間: 令和6年7月6日(土)～9月16日(月・祝) ●場所: 企画展示室 ●観覧料: 500円(常設展含)

## 追悼 市原麟一郎先生～土佐民話よ、永遠に～

●期間: 令和6年10月5日(土)～令和7年1月5日(日) ●場所: 企画展示室 ●観覧料: 500円(常設展含)

## いなかずまいは至極無事ぢゃ～漢詩文をたのしむ五山文学展～

●期間: 令和7年1月18日(土)～3月23日(日) ●場所: 企画展示室 ●観覧料: 500円(常設展含)

予定  
以降の  
展覧会

高知県立文学館で開催する企画展。その他事業は職員全員で消毒・清掃を行い、安心・安全に利用いただけるよう感染予防・拡大防止対策を行っております。

## 利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休館日 年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休  
※その他、メンテナンス等で臨時休館することがあります。  
観覧料 常設展一般370円 企画展はそれぞれ異なります。  
20名以上の団体は2割引。高校生以下無料。  
身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、  
戦傷病者手帳、被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者(1名)、  
高知県・高知市長寿手帳をお持ちの方は無料です。  
(窓口で手帳等のご提示をお願いする場合があります)  
駐車場 なし。ただし近隣に有料駐車場があります。  
附帯設備 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、  
茶室「慶雲庵」  
貸出施設 企画展示室、ホール、茶室  
運営 公益財団法人 高知県文化財団

## 交通のご案内



- JR高知駅から徒歩20分  
(またはバス・路面電車を利用)  
●バス・路面電車「高知城前」から徒歩5分  
●高知龍馬空港から空港連絡バス「北はりまや橋」  
下車、徒歩2分

高知県立  
文学館〒780-0850  
高知市丸ノ内1丁目1-20  
電話 088-822-0231  
FAX 088-871-7857

高知県立文学館 検索

